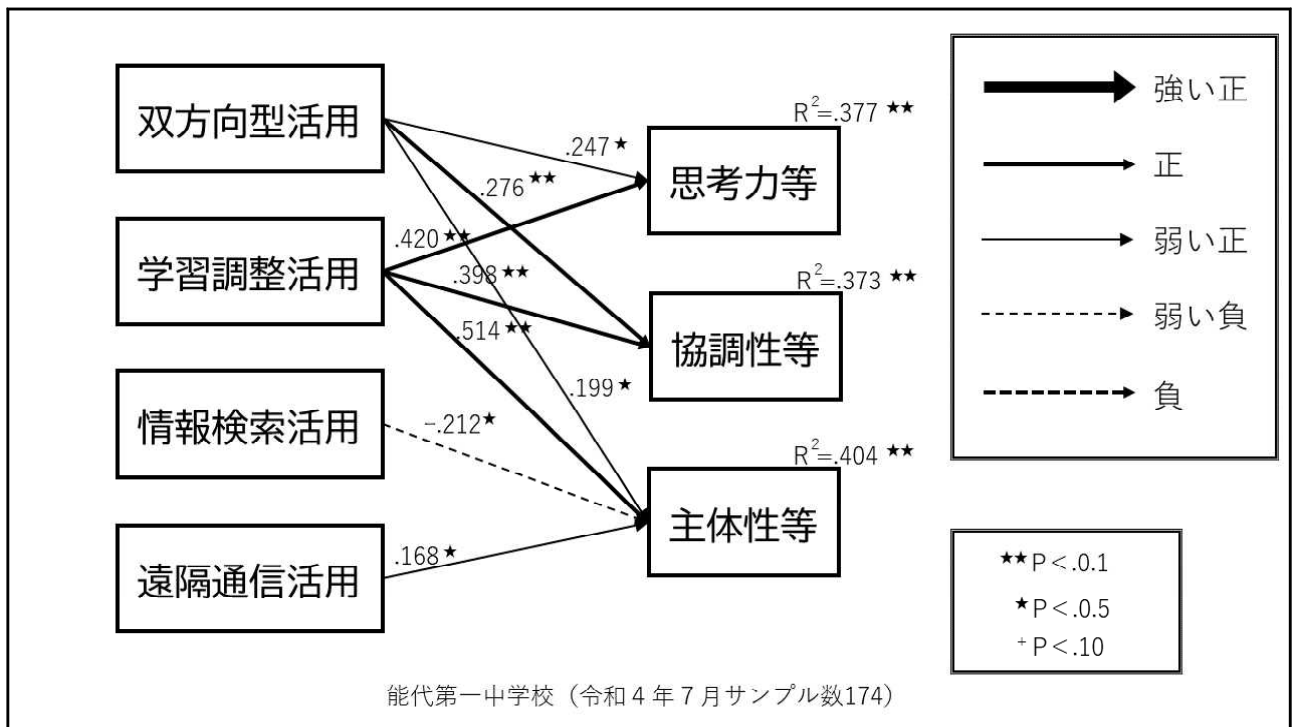
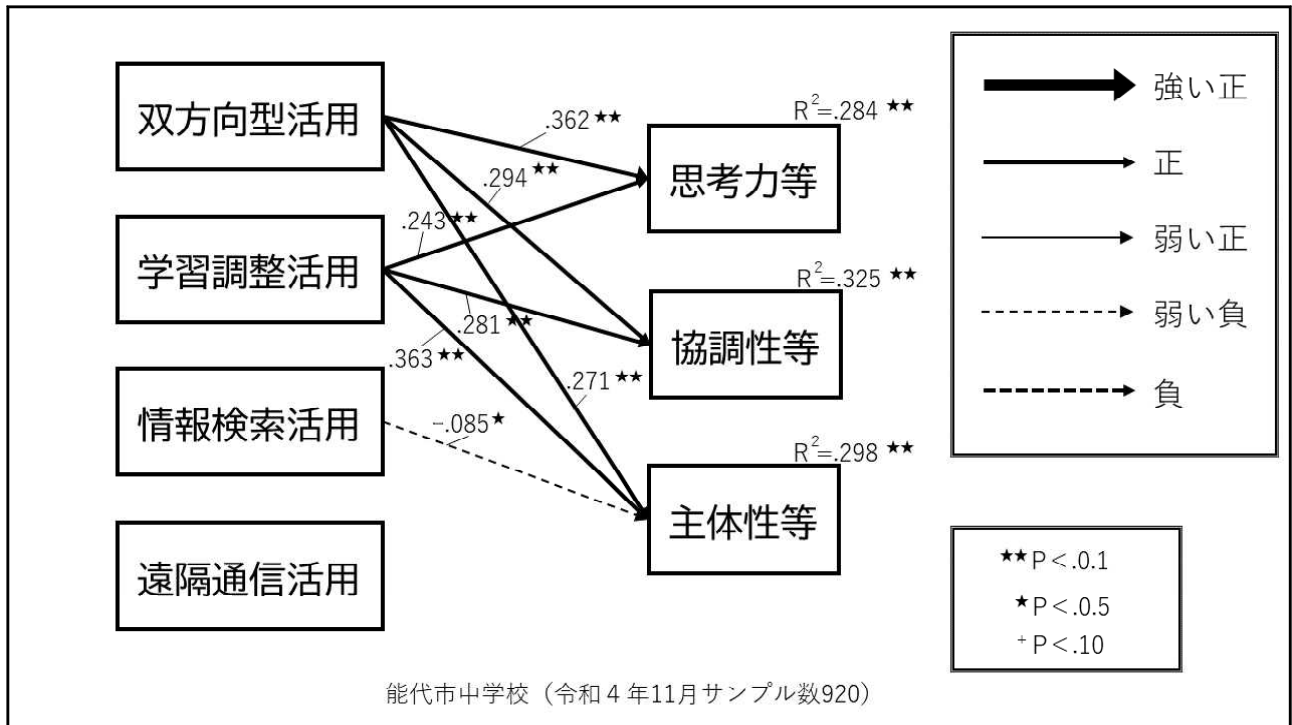


I C Tアンケート分析結果のまとめ



【結果】

- ・双方向型活用と学習調整活用は、思考力、協調性、主体性に正の影響を与えている。
- ・情報検索活用は、主体性等に弱い負の影響を与えている。
 - *目的変数を「思考力」「協調性」「主体性」、説明変数を「双方向型活用」「学習調整活用」「情報検索活用」「遠隔通信活用」としているため、このような表現になります。
 - *重回帰分析では、因果関係の可能性を示すことはできますが、因果関係があると断定することはできません。

【解釈】

- ・双方向型活用とは、自分の考えを画面に表示して発表したり、画面上でみんなの考えを共有したりする活用方法です。自己と他者との関わりを大事にした授業を積み重ねることで、思考力、協調性、主体性のいずれも育つ可能性が示されています。
- ・学習調整活用とは、自分の考えを分かりやすくまとめるなど、自らの学習を進めていく上で活用する方法です。自分で意志決定をして学習を進めることが主体性の向上につながることは容易に想像できます。さらに、この分析結果からは、思考力、協調性にも影響を与えている可能性が示されています。
- ・情報検索活用は、インターネットでわからないことを検索したり、資料や情報をインターネットから入手してノートを作ったりする活用方法です。今回の分析では、主体性に対して、唯一負の影響を与えています。しかし、確かな目的があれば、主体的にインターネットを活用して学習を進めていくことができるはずです。ICTが悪いのではなく活用のさせ方を再考する必要があるようです。

【考察】

- ・今回、図示された結果が普遍性があるものなのか、それとも一過性のものなのかはまだ分かりません。今後、同様の調査を行い比較することで少しずつ明らかになっていくものと考えます。
- ・例えば、情報検索活用と遠隔通信活用について、正の相関が見られなかったことについてどう考えるかです。「そういうものだ」と受け入れるのか、「いや、おかしい」と考えるかでは、今後の実践が変わってきます。もしかすると、ICT活用がさらに進んだとき、情報検索活用と遠隔通信活用にも、他の活用のように3本の線が引かれるのかもしれない。